

令和7年度
運営に関する計画

大阪市立玉造小学校

令和7年4月

大阪市立玉造小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価

1. 現状と課題

(1) 安全・安心な教育の推進

本校の高学年児童には、リーダーの役割を理解した主体的な行動が見られる。また、低学年にも主体的に学校をより良くしていこうとする意識が育っている。しかし、近年、児童数増加の影響等もあり、家庭環境や価値観が多様化し、社会生活の経験の差がより顕著になるなど、集団育成における課題が見られるようになった。一方で、予測が難しい時代に入り、学校教育への期待はますます大きくなっている。グローバル化・複雑化した社会を生き抜くための、人との良好な関係を築く力、コミュニケーション力や多様な価値観を受け入れる柔軟性・寛容性、多様な考えを調整してより良い考えを構築できる創造性などの育成が求められている。

これらの課題をふまえ、本校では、学校教育目標「豊かな人間性の育成」に向けて、児童一人一人の学習意欲や生活改善への意欲の育成、自分自身や人への理解、集団の中での役割意識、社会ルール・マナーを守った行動等を、バランスよく育成することに重点を置き、児童の主体性を生かしたこれまでの取組をさらに深化・充実させたい。

(2) 未来を切り拓く学力・体力の向上

本校の児童は、落ち着いた態度で意欲的に学習に取り組むことができる。全国学力・学習状況調査の国語・算数の平均正答率は、全国平均を上回り、無回答率も低い。大阪市小学校学力経年調査においても、全学年全教科で大阪市平均を上回る。しかし、学級の中には、基礎的な学力の定着が不十分な児童が一定数存在し、学力の二極化が見られる。また、これから時代に必要な資質能力を育成するためには、学習指導要領及び大阪市教育振興基本計画の趣旨を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の推進や、個別最適な学び、ＩＣＴ、図書の活用等により、児童の論理的思考力をさらに深め育成する必要がある。

全国運動能力・運動習慣等調査の調査項目全体の総合結果は、全国平均を下回る年が多い。校舎増築により運動場が狭く、運動機会が減少していることも大きく影響していると考えられる。引き続き、体育科の授業改善、児童が休憩時間に使用できる運動用具の整備を進め、様々な運動に親しませることで、「進んで運動している」児童の割合を向上させたい。また、継続的に運動能力を高める取組を行う中で、幅広い運動能力の向上をめざしたい。

(3) 学びを支える教育環境の充実

児童の学校生活の充実のためには、教職員を含め学校環境の充実が不可欠である。児童一人一人の可能性を引き出し、学力の個人差に対応するために、いつでもどこでも主体的に学べる1人1台端末を効果的に活用したい。

また、教職員の業務改善に積極的に取り組み、一人一人の教職員が、持てる資質・能力を十分発揮することで、より質の高い教育を創出したい。

2. 学校運営の中期目標 及び 中期目標の達成に向けた年度目標

(1) 安全・安心な教育の推進

中期目標	年度目標
<p>○令和 7 年末までに、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>85%</u>以上にする。</p> <p>○令和 7 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を令和 3 年度より減少させる。</p> <p>○令和 7 年度の小学校学力経年調査において、「自分には、良いところがある」と回答する児童の割合を <u>85%</u>以上にする。</p>	<p>①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を <u>85%以上</u>にする。 (R5 78.9%⇒R6 82.0%)</p> <p>②小学校学力経年調査において、「自分には良いところがあると思う」に肯定的に回答する児童の割合を <u>85%以上</u>にする。 (R5 ③82.0%④81.0%⑤82.1%⑥85.4%⇒R6 82.9%)</p>

(2) 未来を切り拓く学力・体力の向上

中期目標	年度目標
<p>○令和 7 年度、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>45%</u>以上に維持する。</p> <p>○令和 7 年度、小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対市比を、いずれの学年も 6 ポイント以上上回る状態を維持する。</p> <p>○令和 7 年度までに、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を <u>76%</u>以上にする。</p>	<p>①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を <u>48%以上</u>にする。 (R5 45.55%⇒R6 47.8%)</p> <p>②小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を <u>76%以上</u>にする。 (R5 ③72.1%④68.0%⑤70.5%⑥58.4%⇒R6 68.3%)</p>

(3) 学びを支える教育環境の充実

中期目標	年度目標
<p>○令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100%にする。</p> <p>○令和7年度までに、1年間の時間外勤務時間が360時間以下の教員を60%以上にする。</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、<u>85%</u>以上にする。</p>	<p>①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の<u>50%</u>以上にする。[ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] (R5.2月の日別活用率31.6%~53.7%⇒R6 16.8%)</p> <p>②第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を<u>81%</u>以上にする。 (R5 67.6%⇒R6 80.95%)</p> <p>③小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を<u>85%</u>以上にする。 (R5 87.2%⇒R6 83.3%)</p>

大阪市立玉造小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成できた C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成できた D：ほとんど取り組めておらず目標も達成できなかった
------	---------------------------------------	--

（1）安全・安心な教育の推進

年度目標	結果	達成状況	分析
①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を <u>85%</u> 以上にする。 (R6 82.0%)			
②小学校学力経年調査において、「自分には良いところがあると思う」に肯定的に回答する児童の割合を <u>85%</u> 以上にする。 (R6 82.9%)			

指標結果 ○：目標を達成できた

(○)：進行中または立案済みで達成予定

△：取り組んだが目標を達成できなかった

×：取り組むことができなかった

年度目標①の達成に向けた取組【方向1 安全安心な教育環境の実現】

取組 1	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況	分析	次年度への改善点
	日々の児童観察等により、早期に不登校や児童虐待の兆しを発見し、スクリーニング会議①及び②等で課題を共有、対策を検討し、支援につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめに関するアンケート」を毎学期実施し、明らかになった課題を解消する。 ・いじめ、不登校、虐待等の課題解決に向け、月1回のスクリーニング会議①(いじめ・問題行動対策委員会)で、情報共有と対策協議を行う。 ・関係機関と連携して対策を検討し支援につなげるため、学期に1回スクリーニング会議②を開催する。 			

年度目標②の達成に向けた取組【方向2 豊かな心の育成】

取組 2	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況	分析	次年度への改善点
	認め合い高め合う集団を育成するため、年度当初に学年・学級目標を設定し、互いのよさを認め合い集団の力を高める指導を意図的・計画的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学級で、4月に、集団の力を高める学級目標を作成し、日常的に目標を基盤にした指導を行う。 ・全ての学級で、友達や自分のよさを認め合い高めあう取組を行う。 ・全ての学級・担当で、「人権教育・啓発推進計画」に沿って、人権教育を進める。 			

大阪市立玉造小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成できた

B：目標どおりに達成できた

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めておらず目標も達成できなかった

(2) 未来を切り拓くための学力・体力の向上

年度目標	結果	達成状況	分析
①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を <u>48%</u> 以上にする。 (R6 47.8%)			
②小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を <u>76%</u> 以上にする。 (R6 68.3%)			

指標結果 ○：目標を達成できた

(○)：進行中または立案済みで達成予定

△：取り組んだが目標を達成できなかった

×：取り組むことができなかった

年度目標①の達成に向けた取組【方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

取組 1	取組内容	取組の進捗状況を 測る指標	進捗 状況	分析	次年度への改善点
	国語科の学習を中心に様々な学習や活動を通して、児童が対話的な学びを実感できるように取り組みを実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間6本の研究授業を行い、効果的な表現活動の充実に向けて検討、討議を行う。 ・全ての学級・教科担当で、話し合い活動を取り入れた授業を展開し、対話的な学びに向けた授業を実践する。 ・全ての学級でICTを活用し、児童の興味関心等に応じた学習(学習の個性化)を実践する。 			

年度目標②の達成に向けた取組【方向5 健やかな体の育成】

取組 2	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況	分析	次年度への改善点
	児童が主体的に学習に取り組み、運動の楽しさを味わい、体力・運動能力を向上させるため、体育科の授業を工夫・改善する。	<ul style="list-style-type: none"> ・スマールステップ、ドリルゲーム、タスクゲーム等を取り入れ、どの子も「やってみたい」と感じるよう指導法を工夫する。 ・全ての学級で、「対話的な学び」のある体育授業を実践する。 ・全ての学級で、年間3回以上は、授業においてICT機器を活用する。 			

大阪市立玉造小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成できた

C：取り組んだが目標を達成できなかった

B：目標どおりに達成できた

D：ほとんど取り組めておらず目標も達成できなかった

(3) 学びを支える教育環境の充実

年度目標	結果	達成状況	分析
①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の <u>50%</u> 以上にする。[ただし、学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く] (R6.16.8%)			
②第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を <u>81%</u> 以上にする。 (R6 80.95%)			
③小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>85%</u> 以上にする。 (R6 83.3%)			

指標結果 ○：目標を達成できた (○)：進行中または立案済みで達成予定 △：取り組んだが目標を達成できなかった ×：取り組むことができなかつた

年度目標①の達成に向けた取組【方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

取組 1	取組内容	取組の進捗状況を 測る指標	進捗 状況	分析	次年度への改善点
	授業以外でもタブレットを活用するとともに、ICT効果的に活用した学習の在り方を探る。	<ul style="list-style-type: none"> 全ての学級で、毎日1回以上、タブレットにログインするようとする。(心の天気) 学期に1回以上、ICTを効果的に活用した授業の在り方について研修を行う。 			

年度目標②の達成に向けた取組【方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

取組 2	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況	分析	次年度への改善点
	教職員のもてる能力を発揮し、質の高い教育活動を創出できるよう、本来業務に専念できる環境づくりと業務の効率化・軽減を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 担任教員の持ち時数を年間平均週26時間以下に設定する。 基本的に6時半までの退勤を目指し、週1回はNO残デーを設定する。 			

年度目標②の達成に向けた取組【方向8 生涯学習の支援】

	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
取組3	児童の言語能力、情報活用能力を育成するため、学校図書館の蔵書を充実させるとともに、落ち着いて読書を行うことができ、知的好心を醸成するような環境整備を行う。	・年度末までに、蔵書の増冊、図書館の環境整備を行う。 ・全ての学級で、学期に1回以上、国語科や読書タイムを活用して、主幹学校司書と連携し担任主体で「読み聞かせ」や「ブックトーク」「アニメーション」などの読書を推進する取組を行う。			